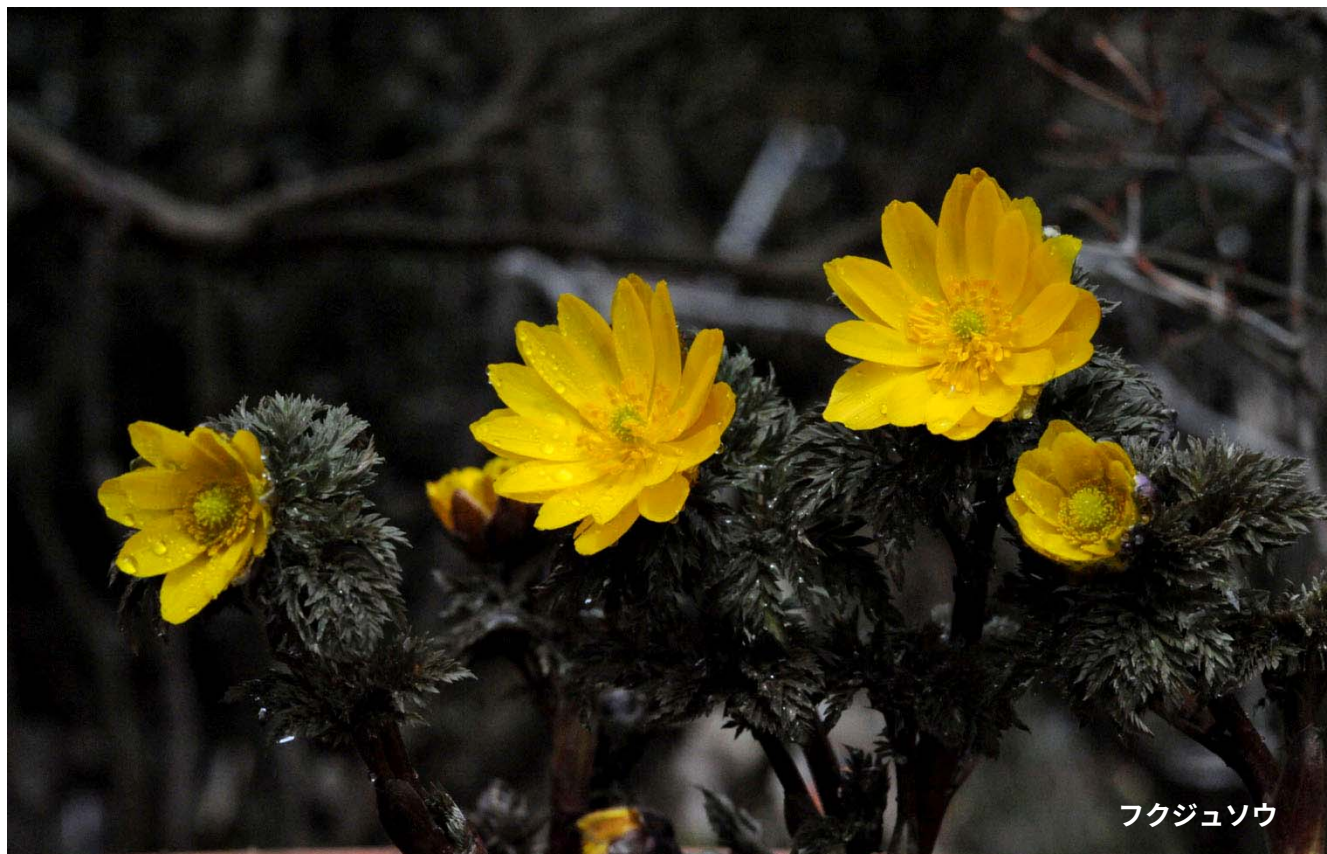




教育センター・育成センター所報

GALILEI



フクジュソウ

新しい教育 柏崎からの発信

平成 21 年 3 月号

柏崎市立教育センター
柏崎市青少年育成センター

インターネット版は
柏崎市教育情報支援シス
テムを検索し、トップ画面の
右上「GALILEI」をクリック
してください。

3月号 CONTENTS



○ 巻 頭 言 「 雑 感 」	1
○ 20 年度教育センター事業総括と21 年度事業展望	2
各班事業総括と展望	6
○ 21 年度教育センター事業運営の基本方針（案）	12
○ 教育センターたより	
●アクセス [教育研究班]	13
教職員専門講座のまとめ 研修講座スナップショット！	
「若手教員自主研修サポート事業」予告	
[情報教育]	15
教育情報支援システム情報 セキュリティ情報	
●プロジェクト K [科学技術教育班]	17
新年度の準備をお願いします	
●心の窓 [教育相談班]	18
20 年度総括～教育相談班～	
●プラNET [視聴覚ライブラリー]	21
平成21 年度より図書館へ移転します	
○ 青少年育成センター通信	23
市教育委員会から表彰される	
○ 所員随想つれづれ 「 時速6kmを楽しむ 」	25
○ こんなときは教科書センターへ	26
○ 教育センター 4月の予定	27
○ 教育センター利用状況（今年度（先月末））	28

○卒業・進学・旅立ち。別れと出会いの季節。
蛍雪の功成り、希望と夢に胸ふくらませ、多くの子どもたちが学舎を巣立った。卒業を心よりお祝します。

○今年度の卒業生は、小学生が 865 名、中学生 839 名（中等教育学校3 年生を除く）である。一学年 1,000 名を切ったのは、5, 6 年前であったと思うがずいぶん減ってきている。ちなみに、成人式の対象者数は 1,025 名、さらに、80 歳の第二成人式対象者は 1,016 名であったというのだから驚きである（両方とも H20 年）。

○当センターの「ふれあいルーム」では、8 名の中学3 年生が巣立った（学校復帰者は他に 2 名）。長くは 6 年近く通った子どももいる。学校とは異なる場であったが、ここで遊び、語り、友達をつくり、いろいろの活動を体験し多くを学んだ。当ルームが物心両面で居場所となり、深く学び大きな成長を遂げた。晴れて、進路も決まり、各々の中学校も卒業した。前途に幸多きことを心より祈っている。

○教職員の人事異動も発表される。退職等異動される方は多いと聞いている。

「劫初より造り営む殿堂に我也黄金の釘ひとつ打つ」教育も殿堂に似て、昔から、そして、未来永劫に渡り創り営まれ続ける。その一時期、学校に全精力を注ぎ務め努められた。そして、太く長い黄金の釘を打ち、転退出される。そのご努力・ご功績に深く感謝したい。

○山も眠りから覚め、笑い始める。躍動の季節。それぞれに節目。人は、気持ちの持ちようで変わり、変えることができる。

Change !

Change life
and ○○○ !

(mt. jin)



雑 感

柏崎市立柏崎小学校
校長 渡 邊 隆 樹
(教育センター運営委員)



- ◇ モーツアルトの音楽はシンプルでむだがない。「ザ・モーツアルト・エフェクト」の著者ドン・キャンベル氏の説く効果は“①注意を集中させる②右脳を活性化して想像力を高める③ストレスを和らげる”などである。

「天才的な頭で、シンプルだが、むだのない音楽を作り上げており、それが健康に良い影響を与えている」と語っている。

授業で、各種教育活動等で活用できないか、考えさせられる。

- ◇ また、モーツアルトの音楽について。埼玉医科大短大の和合治久教授は、“様々なストレスを感じながら生きている現代人は、常に「緊張の神経」といわれる交感神経優位の状況に置かれている。そのため、「リラックスの神経」といわれる副交感神経の出番がなく、そのアンバランスが高血圧、糖尿病などの生活習慣病や不眠などを生み出している。バランスを保たせるのに有効な周波数やリラックスモードに導く「揺らぎ」をふんだんに使っているのがモーツアルトの曲なのです”と語っている。モーツアルトを聴いてみませんか。

- ◇ ある脳科学者の話から。“5万年前、アフリカの人類が世界中に広まって、言葉・言語が生まれ、文化が生まれてきた。これからの脳科学は、まず、脳を知る領域（構造と機能）、脳を守る領域（脳疾患・神経障害）、脳を創る領域（脳の理解、モデルを創る）、脳を育む領域（教育、学習）の四つの領域に研究を進めていく”ということである。学校教育と脳科学がかかわりあって教育が営まれていくとどうなるのか興味をもつ。

- ◇ アメリカ大統領の就任演説が話題になっている。「チェンジ（変革）」という言葉は2回しか使わず、自分への期待を背景に「忍耐」を求め、「アメリカ再生」「新しい責任の時代」に向け団結して取り組む必要性を説いていた。キーワードを拾ってみる。「恐怖と団結」「新たな責任の時代」「あらゆる人種と信条」「平和への先導役」「希望と良識」「危機への決意」「国家の偉大さ」「変わる世界」「新しい責任の時代」「自由を未来へ」などである。

自分の学校に置き換えて考えてみたいと思ったが、なかなか難しい。

- ◇ 柏崎市立教育センターの「庶務・視聴覚ライブラリー」「教育研究班」「科学技術教育班」「教育相談班」の各班のスタッフから学校の教育活動への全面的な支援をいただきました。来年度もご支援をお願いいたします。

20 年度教育センター事業総括と 21 年度事業展望

1 はじめに

景気低迷、社会不安等、底の見えない閉塞状況にあり、教育界においても課題山積である。教育三法に続き学習指導要領も改訂され、「生きる力育成」も再確認・強化された。移行措置とともに学力・体力調査結果等により改善改革の具体的取組が進行している。

このような状況のもと、当教育センターは教職員研修と教育相談を事業運営の2本柱として運営し、学校や子どもたち、保護者、地域住民に対して支援、相談、指導、サービス業務を行ってきている。限られた条件のもとではあるが、大きな成果を挙げてきていると自負している。

しかし、学び成長し続ける子どもたちや資質指導力を高め続ける教職員に対応するためには、教育センターも改善・向上し続ける存在でなければならない。今年度事業の総括を行い、今後の事業の方向を探り改善に繋げたい。

2 事業全体の参加・利用状況 ⇨⇨⇨ 前年比2割以上増、一昨年比微増の見込み [全体]

- 20 年度教育センター事業の参加利用総数は1月末現在約2万件で、昨年度より4千件増(地震の影響)、一昨年度1月末(約1.9万件)より微増している。
- 教職員研修の参加総数は、各教科領域の専門講座と情報教育研修講座、理科研修講座を合わせて約 113 講座におよそ 2,063 人が受講した。また、要請があつて学校等へ出向いて行った研修は理科・情報教育を中心に 173 回、約 1,766 人が参加し、前年同時期より 716 人多い参加であつた。これは、郡市小中学校教職員が一人平均 6 回受講したことになる。
- 教育相談班のカウンセリングルーム来室相談は、1月末で 684 件となり、前年同時期の 519 件を超えた(昨年度比 32%増)。そのうち、不登校に関する相談人数が最も多く、次いで、発達障害(通常学級)となっている。不登校に関しては、小学生の不登校相談が昨年度を大幅に上回っている(昨年度同時期は 18 名、今年は 29 名)。
- 震災に関する心のケア関係の相談に関しては、地震後のトラウマに直接関する主訴に対応したものは6人 25 件と少ないが、発達障害の症状・問題行動に関する相談や不登校相談のうち、震災が長期的に影響しているケース(ex.震災後仮設住宅へ転居しているケース、震災後、保護者が精神失調状態になっているケース、保護者が失職などで経済困窮に陥っているケース、等)が見られる。

3 研修の特徴 [全体]

今年度の専門研修の工夫改善点や特徴は次のことにあつた。

- 今日的課題を受けた研修会
 - ⇨新学習指導要領、特別支援教育、小学校英語、道徳教育など教育界の今日的課題に対応した講座

- 希望が多い特別支援関係の研修会
 - ⇨心の教育や軽度発達障害等、希望や悩みに応える研修
 - 地域(自然、施設、人材等)を探究し、教材として授業に生かせる研修会
 - ⇨ソフィアセンターや博物館や夢の森公園等市内外の専門家を講師とする研修
 - 具体的専門的見地からの情報教育研修
 - ⇨PC操作法や情報セキュリティ等、教育情報化の多角的推進のための研修
 - 職能成長を図る研修会
 - ⇨学校運営や教科領域等の専門性を養う研修
 - 参加型研修会
 - ⇨参加者が主体的に研修を受け進める等、運営形態を工夫した研修
 - 連携共催型研修会
 - ⇨学校教育研究会を中心に他の組織との連携による研修会
 - 実力をもち、特色ある著名な講師陣を迎えての研修会
 - ⇨市内外の優れた実践者等、多様な講師による内容の濃い研修会
 - 長期休業を有効活用した研修会
 - ⇨時間と場、施設、指導者等の有意義な活用による研修
 - 若手教員の計画的な研修
 - ⇨算数数学の指導方法についての1年間にわたる研修
- 工夫改善を加えた研修内容・方法は、研修意欲を誘い、前述のような参加者増に繋がっており、大きな研修成果と職能成長を図ることができた。

4 研修意識の自覚を ⇨⇨⇨⇨ **研修に対する意識の差が拡大** [全体]

教育センターにおける研修講座(要請訪問を除く)への参加は一人平均2.4回である。多い人は12回も参加している反面、1回も参加しなかった教員が見られる。教職員は、柏刈学校教育研究会の2つの部会に所属しているので、最低2回の研修(部会)に参加できるようになっているにも拘わらず参加ゼロが存在する。また、参加者がやや固定化する傾向が見られる。

教員は「職責遂行」のための研修が義務づけられている(教特法)。一般公務員の「勤務能率の発揮、増進」のための研修(地公法)以上に研修を重視している。また、「学ぶ者のみ教えることができる」(大村はま氏)のごとく、教員は、常に学び続けることによって教員として在り続ける。研修しない教員は「教員としての職責遂行能わず」「教員としての資格能わず」「職を辞すべし」に等しいことを強く自覚したい。

参加ゼロ教職員は外で研修しているのであろうか、それとも、研修を不要とするほど資質指導力に秀でて、職責を全うに遂行していると認識しているのであろうか。管理職もそれを認めているのであろうか。参加ゼロや参加者の偏りの背景は、多忙からだけではなく、研修に対する意欲や意識の希薄さ(欠如)、怠惰怠慢が感じ取れる。一部の教職員、学校においては、研修に対する意識や学校体制、管理職の指導姿勢等において、改善が迫られている。

5 急増、重篤化する相談 教育相談の人的体制の強化、専門職の配置を [教育相談班]

教育相談は、相談事例が重症化していることが特徴である。相談件数の増加に加え相談内容の複雑さ、子どものおかれた厳しい状況、家庭の閉塞感など問題解決には多大な時間とエネルギーを要する相談事例が多い。また、カウンセリングや SST の希望は大変多く予約待ちをしている状態なので、市子ども課育児支援係をはじめ市内外の専門機関と連携しながら教育相談を進めるとともに、専門的な資質を持つ相談職員の配置増を検討していきたい。

6 身近な自然に触れる理科教育の推進を 観察実験、実体験(直接、間接)の増加を

[科学技術教育班]

理科指導についての国立教育政策所等の調査(対象:小学校教員935人)に、「観察や実験の回数」についての問いがあった。学級担任(小学校、理科主任以外)では、「ほぼ毎時間行う」教員は18.5%、「週に1回」が44.8%、「月に1、2回」が32.1%、「数ヶ月に1、2回」が3.7%、「年に数回以下」が0.4%(2人)だった。当市においては、問題意識や学習意欲を育てたり自分の予想や考えを確認したりするために観察実験は欠かせないという認識はなされているであろうが、ややもすると易きに流れてしまうことも否めない。当教育センター(科学技術教育センター)では、野外観察の適地や観察実験・指導の適切・安全な方法等について研修会を行い、また、学校や教員に個別に支援してきた。

- ・ 初任者研修理科講座(中越教育事務所委託事業)
- ・ 実験・観察融合型デジタル教材活用共同研究(県立教育センター委託事業)
- ・ 上越科学技術教育研究会・上越地区理科教育センター研究協議会との共催事業

科学の祭典など科学振興に関する事業は全て計画どおりに実施することができ、大勢の親子連れが訪れ、自然や科学のすばらしさに驚きかつ楽しんでいる姿が多く見られた。理科離れを防ぎ、地域の青少年の科学の芽を育む等、大きな成果を挙げることができた。

- ・ 科学研究発表会 ・ 科学作品展 ・ 自然観察会(植物、昆虫、天体等)
- ・ 科学の祭典(2回の実施、新潟工科大学との協力)

7 指導・校務の情報化のより推進を [情報教育]

○ 情報流出事故の防止

個人的原因(大学在学中によるウィルス感染)からであったが情報流出事故が起きてしまった。しかも、流出内容が学校の個人情報であり、持ち出しに許可を要する内容であることから、管理面での責任も問われ、市教委でも教育センターでも対応を行ってきたところである。学校研学校事務研究部でも「個人情報取扱いの手引き」を発行するなど、周知徹底に努めてきている。今後、セキュリティ対策と共に情報管理面でのさらなる徹底が必要である。

○ 校務の情報化は教務主任から

学校の情報化推進はその学校の教務主任によるところが大きい。パソコンはじめ情報機器の利活用は学校教育全般に及んでいるが、その利活用が個人レベルで終わってしまうと効果は半減する。したがって、学校の教育活動を直接管理している教務主任が、学校の情報化システムの構築を理解し管理していく必要がある。そうすることによってシステムの共有性・継続性が保たれ、教員の異動による活用の停滞が解消される。既に学校研の学校事務研究部では先進的に取り組んで成果を挙げているが、教務主任も組織をつくって校務の情報化を共同で検討する必要がある。センターの教育情報主事は大いに支援の労を惜しまない。

○ 教職員の個人メールアドレスの活用

教職員個人メールアドレスが整備され、メールによる研修講座案内や GALILEI の定期配信などの運用を行っている。効率的で大変便利という声が多いが、メールシステムに慣れない教職員も多く十分な利活用には今一步である。このシステムを周知しさらに活用を推進していく。

○ 教育情報支援システムの運営、所報「ガリレイ」の発行と配信

教育情報支援システムでは、各教科等の新しい指導教材や地域に密着した教育情報、研修講座のテキスト等の発信を行っている。また、所報「ガリレイ」についても、紙面及びインターネットの両面から、教育センター・育成センターの新しい充実した情報を発信している。

8 利便性が向上したライブラリー [視聴覚ライブラリー]

フィルム・ビデオ等教材の利用や視聴覚機材の貸し出しは、幼児教育や学校教育、社会教育における学習・啓発用の教育教材が中心で、貸出回数は昨年同様であった。

借りるための検索操作は、教育情報支援システム及び教育センターコンテンツサーバの両方に教材目録をデータベースとして載せているので必要なキーワードにより簡単容易に検索することができ、借りやすいと好評である。

最近は新規購入教材が激減しているが、これらを補充することが当面の課題である。

次年度は、図書館に移管になるので、引継ぎ開設業務を滑らかに進める。

各班事業運営の総括と展望

1 教育研究班

(1) 専門研修

今年度の実施講座数は75講座で、1,765名の参加者があった。総合の地域学習の講座のうち、「川での投網体験(8/22実施予定)」は、雨天のために中止をしたが、それ以外は予定通りに運営することができた。今年度の専門研修の特徴は次の点にある。

- ・ 今日的課題を受けた研修会：新学習指導要領、特別支援教育、小学校英語、道德教育など教育界の今日的課題に対応した講座研修会。
- ・ 参加型研修会：参加者が主体的に研修を受けられるよう運営形態を工夫した研修会。
- ・ 連携共催型研修会：学校教育研究会を中心に他の組織との連携による研修会。
- ・ 特色ある講師陣：市内外の身近ですばらしい実践者など多様な講師を招いての内容の濃い研修会。
- ・ その他の特徴：・地域性を生かした研修 ・長期休業を有効活用した研修 ・情報教育の充実を図った研修

次年度も柏崎市刈羽郡学校教育研究会の各部会と連携し、研修内容と研修会運営方法について検討し、より一層の質的な充実を図っていく。

(2) 調査研究

「情報モラル教育柏崎市モデルカリキュラム」作成に取り組み、3月中旬に完成し学校に配布した(作成委員9名(小学校教員5名、中学校教員4名))。これは、昨年度作成した「柏崎市教育の情報化推進プラン」を基盤に更に発展充実させたものである。

柏崎市の全小中学校において、子どもの発達段階に応じた系統かつ効果的な情報モラル指導の実践がなされるよう、その基となる「柏崎市モデルカリキュラム」を作成してきた。各学校では、これを基にして年間指導計画を作成し授業実践を行うことになるので、継続、充実した支援を行っていきたい。

(3) 教科研修員研修

3名の若手研修員が、年間7回の研修会を核に、自己の課題と解決方法を明らかにし積極的に実践研修を進め、教科指導における力量を伸ばすことができた。2月下旬に「研修のまとめ」を作成し、1年目の研修を完了する。2年継続し、次年度は市教委論文に応募する予定である。本年度は、教科を算数・数学に限定しているが、次年度は、研修員を増やし、また、教科を限定せずに、若手教員の希望する教科等で進める。研修実施にあたっては、校長会や柏崎市刈羽郡学校教育研究会との連携を図っていく。

(4) 柏崎市教育情報支援システム運用事業

教育にかかわる分野の情報を蓄積・共有・再利用することで、よりよい授業や業務の支援を目指す「柏崎市教育情報支援システム」について、日常的な運用や登録情報の充実を図り、さらに同システムを中心とした「教育の情報化」を多角的に推進する事業であり、次のような活動を行ってきた。

① 柏崎市教育情報支援システムの運用

- ・システム内の情報の維持・バックアップ
- ・システムのセキュリティ対策
- ・かぜ・インフルエンザ様疾患罹患状況マップ、保健統計処理の管理・支援

② 柏崎市学校教育ネットワークの運営に関する支援

- ・教育機関のセキュリティ確保への指導・助言
- ・教育センター内の研修用情報機器のセキュリティ対策
- ・教職員用メールアカウントの維持・管理
- ・教育センター「コンテンツサーバー」の維持・管理

③ 「教育の情報化」の推進

- ・「情報モラル教育年間指導計画」の作成
- ・「教育の情報化」に関する教職員研修講座の企画・実施
- ・TT 支援

(5) その他の事業等

- (ア) 授業研究、校内研究に対する相談とサポート活動
- (イ) 市内各学校はじめ全国の教育情報の収集と提供活動
- (ウ) 各学校の校内研修や発表会等への参加・支援活動
- (エ) 自主研修サークル活動への支援活動
- (カ) 研修の機会や事業を通してのネットワーク的機能構築活動

2 科学技術教育班

(1) 重点的に取り組んだ業務内容

① 基礎的・基本的内容の確実な定着とともに科学的なものの見方が養われる単元別研修会

単元別研修会では、指導して困難を感じた点を取り上げ、子どもが陥りやすい間違いを未然に防ぐ指導展開(発問等)や誤った概念(固執に起因)を払拭する教材などを研究開発し、それらを伝達し、指導上の工夫や技能の理解習熟を図り、授業に即使える教材を持ち帰ってもらっている。

観察・実験の活動と習得すべき知識とが結びつきにくい小単元が多く存在するが、具体物を操作して得られた事実を理科の知識や論理的な説明といった抽象的な概念にまで結びつけるには、大胆に単元構成を見直したり、観察・実験の新しい手法を導入したりすることが必要である。自ら事実を獲得し、その獲得した事実を積み重ねていくことで自然現象を論理的に説明づけることができる子どもたちの育成に努めている。

② 地域に根ざし 地域に出向く研修会

小学校・中学校で、最も要請が多いのは、地域素材を活用する学習の研修である。なかでも、地学・生物領域の依頼が多い。実在している地域素材やそれをまとめた冊子などを見ても、それだけでは子どもたちに指導できるものではない。季節変化により常に移り変わる植物素材や大雨や地震などによってすぐに変化してしまう地質素材のように、常に地域の自然素材は変化している。この自然の変化と学校事情を吟味し、適切な観察場所と時間、取り上げる素材を提示するように努めている。現場に密着し、生の声に触れ、課題や疑問に即応することや具体的な授業の構想を提案しながら共に授業を考える場面を持つことこそ、子どもたちが科学的に自然を見る力を伸ばす環境作りに直接関わることができ、真の学力向上を目指す学校づくりの一助となることができると考えている。これは、学校職員の理科指導に対する不安を払拭し、理科離れを食い止める取組ととらえている。

③ 地域の大学との連携

新潟工科大学と連携し、青少年のための科学の祭典を行っている。6月と11月に、柏崎刈羽の学校の教職員や地元企業、さらに、新潟工科大学の教授・学生と協力して合計33ブースの科学実験を行った。3,900名を超える来場者を数え、科学の不思議さやものづくりの大切さを広く地域に訴えた。今年度から、大学の学生によるブースの運営を交えることとし、より子どもたちになじみのある言葉や若い感性を持つ十代後半から二十代前半の学生達によって理科好きな子どもたちを育てることを試みている。今後も、専任所員が大学の学生を含むブース運営者への指導に赴くなど、理科教育に携わる人材との連携を強化し、小・中学校の子どもたちと理科系の大学生との交流による科学の啓発活動を地域の理科教育の重要な基盤にしていきたい。

また、柏崎刈羽の理科教育に携わる多くの人材が、この科学の祭典の運営に関わることで、小学生から大学生までの理科教育のつながりを意識するきっかけになると考えている。理科学習のギャップは、中一ギャップだけではなく、高校や大学への進学度に、非常に大きな概念を覆すほどのギャップがあると思われる。小学校から大学の理科教育に携わる教員が、それぞれの子どもの発達段階においてどのような科学概念形成を目指しているのか等について、子どもを介して互いに交流することができると考える。高度な科学概念を小学生でも感じ取ることが出来るように工夫する視点を持つことや素朴概念に立ち戻らせる必要性を大学生にも意識する機会をもつよう働き掛けることなどを通して、柏崎刈羽の理科教育に携わる人材の力量をより一層高めることにつながると考えている。

④ 地域の人材と学校とのコーディネート

柏崎の植物や貝、昆虫、天文などに精通した地域の人材や海洋生物環境研究所や原子力広報センターなどの企業と連携し、自然への啓発活動やエネルギー教育活動を行っている。また、総合学習などにおいて、地域の自然を取り上げ探究活動を仕組む学校同士が支援するネットワークを共同で構築している。科学の祭典や互いの科学のイベントでの交流により、顔の見える地域人材の把握が可能となっている。人材リストだけを見て、全く知らない人や企業と連携して学校の教育活動を仕組むのは、教職員にとっても敷居の高いことである。地区科学技術教育センターの専

任所員が地域の人材と学校との間をコーディネートすることで、理科の視点から、地域が子どもを育てることに深く関わることに繋がると考えている。

(2) 現状の課題と今後の方向性

① 教員の理科研修会参加について

特に「実験の基礎技能」のような研修会では、経験の少ない教員にこそ参加して欲しいところであるが、若い教員の参加が少なく、逆に経験豊かな教員や教頭の参加が多く見られる。「自分の研究教科は理科だ」と自信を持つことができる若い教員がさらに増えるよう、各学校や理科主任会などに強く働き掛けていきたい。

また、新学習指導要領への移行に伴い、次年度より始まる新内容の研修も実施するので、各校において円滑な移行ができるよう参加を呼びかけ支援していく。

② 子どもたちの体験活動の保証について

月や星の観察や地層の観察などのように、小・中学校の学習指導要領において「野外観察を行うこととする」と明記されている単元においても、子どもたちに観察の機会を持たせることがなかなかできないという声をよく耳にする。実施しなければならないと分かっているけれども、実施せずに先送りになっている学校が少なくないのは指導の困難さ故であろう。

地層観察を例にとってみると、学校にある石の標本を観察するだけでは特別な物体を眺めているに過ぎず、子どもたちにとっての身のまわりの自然の見方が養われるわけではない。実際の地層を目にして、触れてみたときに、疑問が生まれ、何を調べたいのか何を学びたいのかが明確になってくるものである。観察地点の大地がどのようなはたらきで出来たものであるかなどの追究活動を行うことで、科学的な根拠に基づいた自然の見方が身につくものであると考えられる。

野外観察については、年度当初に年間計画の中に入れてもらうようお願いし、必ず実施するように働き掛ける。また実施に際しては、今年度同様、要請に応じて各学校に出前授業をする支援を継続していく予定である。

③ 教員対象の要請研修会の連絡調整について

子どもたちを対象とした要請研修会は、各観察会や科学クラブ、科学研究の進め方などで数多くの活用をいただいているが、要請のほとんどが授業日であるために比較的要請希望日が重なってしまうようなことは少ない。しかし、教職員を対象とした要請研修会の希望日はどうしても夏休みに集中してしまう傾向にあるため、希望する内容とかみ合わないことがある。例えば、野外の動植物などを対象とした研修会であれば、時期が合わないために実施が難しいなどの不都合が生じることがある。各学校事情による日程と希望する内容のバランスが取れるよう、今年度以上に年度の早い段階から綿密な連絡を取り合い相談に応じていきたい。

3 教育相談班

(1) カウンセリングルーム

- 教育相談班のカウンセリングルーム来室相談は、1月末で 684 件となり、前年同時期の 519 件を超えた。（昨年度比 32%増）。そのうち、不登校に関する相談人数が最も多く、次いで、発達障害（通常学級）となっている。不登校に関しては、小学生の不登校相談が昨年度を大幅に上回っている（昨年度同時期は 18 名、今年は 29 名。）。
- 震災心のケア関係の相談に関しては、地震後のトラウマに直接関する主訴に対応したものは 6 人 25 件と少ないが、発達障害の症状・問題行動に関する相談や不登校相談のうち、震災が長期的に影響しているケースが見られる。
- SST は 19 年度からグループを増やし、20 年度は 5 グループ合計 31 人の小中学生に対してグループ指導を行っている（1月末現在で延べ 220 人）。学校からの勧めなどにより参加希望者も多く、候補児として次期以降に待機してもらっている児童生徒が数名いるが、ルームの相談件数が増えてグループ担当者の負担が過重になっているため、受け入れを増やすことが困難である。大洲小学校、柏崎小学校、第一中学校のみの教室などへ紹介していく必要がある。

(2) 適応指導教室・ふれあいルーム

- 4 月に 14 人の通級登録者でスタートし、1月末現在 16 人である。年々、単純型の不登校が少なくなり、発達障害を持つ者、機能不全家庭にいる者、精神障害を合併している者など、通級生の状態像が複雑化している。
- 集団への適応力や個人の生きる力を養うことを目指した体験活動も、自分の好きな活動だけに参加し、他は回避しようとする傾向が見られる。また、通級時間がルーズになったり、再登校を試みもしなかったりする傾向が見られる。ふれあいルームに楽しさや面白さを期待する傾向があるが、通級生本人に通級の目的意識や自己目標を持たせるようなかわりをしていきたい。
- 学級担任連絡会で、通級状況報告やフィードバックシートが学校とふれあいルームの連携のために重要であることを確認して出発するのであるが、フィードバックシートが返ってこない学校がある。子どもを育て、登校に導くには連携が重要であることを強力に訴えていきたい。

(3) 学校訪問相談

- 学校訪問の相談内容としては、特別支援・発達障害に関するもの、学校・学級不適合（不登校を含む）に関するもの、家庭環境に関するものなどが多かった。カウンセリングルーム、ふれあいルーム、家庭訪問相談員等の協力連携や元気館など外部機関との協力等により望ましい対応ができたケースが増えた。しかし、学校側の意向が該当児童生徒や家族に理解されないために、相談が遅々として進まないケースもあり、今後の課題として残った。
- 問題行動や気になる児童生徒への対応は、早期対応とそのための校内支援体制の構築が重要であると訪問を通じて学校にお願いしてきた。各学校の課題意識が高まり、望ましい支援体制ができあがってきた。次年度も、今年度効果があがった同道訪問の充実や教育相談班一体となった対応をなお一層推進していく必要がある。

(4) 家庭訪問相談

- 今年度は、1月末現在で中学生4名に対して家庭訪問を継続してきた。大半が発達障害の疑われるケースである。本人との関係を保ちながら、保護者・学校・各関連機関と連携を図りながら支援を進めてきた。訪問相談の場をふれあいルームに移し、段階的にふれあいルーム通級につながったケースもあった。
- 本人の発達障害などの特性に加え、機能不全の家庭環境などが複雑に絡み合っているケースが増えてきている。そのようなケースの支援においては、本人や家族とのつながりを保ち、さまざまな情報提供をしながら寄り添っていく地道なかかわりとともに、学校や病院、元気館など他の機関と連携しながら複数の目で家族を見守り、支えていくことが重要となる。今後も学校はもちろんのこと各関連機関との連携を密にして家庭訪問相談を進めていきたい。

4 教科書センターの利活用

小学校(高校)教科書の採択替えのための教科書展示を行い、学校関係者からも一般市民からも教科書についての理解を深めていただく機会となった。

教科書展示会は、法定期間より長く開設し、開設期間(29日)中の閲覧 **306** 名は、県内閲覧数で群を抜いて多い。それに比して、研究等の閲覧が 17 名と非常に少ない(記帳者数)ことは課題であり、改善を図りたい

平成21年度教育センター運営の基本方針（案）

1 基本方針

教職員研修と教育相談を中核に据え、子どもたちの生きる力の育成等を目指し、学校教育の課題解決や当市教育行政の推進、新学習指導要領及びその移行措置実施等を円滑に行い、学校・地域・保護者等の期待や要請に応え、柏崎の教育向上に寄与する。

2 運営の方針

(1) 研修等の内容・方法を工夫改善し、教職員の意識高揚、資質指導力向上を図る

ニーズや時代の要請に合った研修、多様化複雑化してきている障害等、学校が抱えている課題に対しての教育相談の研修、新学習指導要領及びその移行措置の円滑な実施のための研修等の充実を図り、教職員の指導力実践力向上に努める。

研修の必要性を感じ、意欲的に受講することができるよう研修の内容・方法の改善を図り、受講しやすい環境を整え、研修会参加増に努める。また、学校教育研究会等の研修団体と、研修の計画段階から連携を深め、教職員の力量向上に資する。

(2) 教育相談体制の充実を図り、子どもたちの実態に応じた支援に努める

子どもたちの悩みや問題行動の予防と解決を目指して、ケースワークを中心とした教育相談体制を整え、学校との連携を強め、子どもたちの健やかな成長に寄与する。

一人一人の教育的ニーズに沿い支援、指導することができる専門性や指導力の向上を図る特別支援教育研修の充実を図る。

(3) 教育の情報化に努める

情報モラルを中心とした子どもたちの情報活用能力の育成のため、教職員のICT活用指導能力の向上に努める。

教職員のPC一人一台環境を活用して教育の情報化を円滑に進め、情報セキュリティの確保及び業務の効率化と改善の支援に努める。

教育センター事業の理解と協力を図り、教育ネットワークの活用を進め、新しい教育に関する情報を発信する。

3 運営の重点

(1) 専門研修講座の充実

- ・ 資質指導力向上、意識高揚を図る研修
- ・ 新学習指導要領（移行措置等）に関する研修
- ・ 観察実験（特に地層観察）研修、野外研修等、理科指導研修
- ・ 特別研修、若手教員研修、調査研究、教科研修員研修
- ・ 市努力点、市四次総の実現に関する研修
- ・ 柏崎の教育3・3・3運動等と関連付けた家庭教育支援に関する研修
- ・ 特色ある専門講師の招聘、教育研究会等との共催による専門研修

(2) 情報教育及び教育の情報化に関わる研修

- ・ 情報教育の指導・活用、情報教育に関する相談支援
- ・ 教職員のPC一人一台環境に対応した、校務の情報化講座

(3) 教育相談事業

- ・ 相談体制の協力連携による有機的教育相談
- ・ 特別支援教育の充実
- ・ ふれあいルーム（適応指導教室）の活動とカウンセリングルームの教育相談活動・学校訪問相談・家庭訪問相談の連携した運営

(4) 教科書センター運営

(5) 科学技術教育の振興と啓発事業

- ・ 自然観察会、科学作品展、科学研究発表会、科学の祭典、研究奉仕活動

(6) 広報活動

- ・ 教育情報支援システムの運用、教職員個人メールアドレスの活用
- ・ 所報「ガリレイ」の発行と配信

No.89	平成 21 年 3 月 19 日発行	柏崎市立教育センター	945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2-31 TEL:0257-23-4591 FAX:0257-23-4610
-------	--------------------	------------	--

教職員専門研修講座のまとめ

今年度の研修講座も全て終了しました。これまで多くのみなさんからの参加をいただき、大変ありがとうございました。みなさんからお寄せいただいた感想やご意見をもとに、来年度もよりよい研修講座の設営に努めてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

教科・領域		研修概要	回数	受講者数
国語		国語教科指導法Ⅰ・Ⅱ，デジタル教科書，松浜中研究会	4	118
社会科		社会科教材研究，市内文化財巡り	2	46
算数・数学		小学校示範授業，教科指導法Ⅰ・Ⅱ	3	94
理科		小学校教材×(9)，中学校教材×(6)，小学校示範授業×(1) 合同野外研修×(3)	19	159
生活科・理科		紙すき、草木染め、畑作りと栽培、実験工作Ⅰ・Ⅱ	5	54
音楽		人形浄瑠璃文楽，マーチングバンド	2	44
図工・美術		児童画指導法	1	58
保健体育		体育教材研究，ニュースポーツ	2	57
技術・家庭		中学校家庭科教材研究，中学校技術科教材研究	2	23
英語		小中連携英語教育、南中学校研究会	2	103
道德教育		モラルスキルトレーニング，鯨波小研究会	2	149
特別活動		学級経営	1	25
生徒指導		生徒指導体制の在り方と機能，教師力向上，不登校への支援 保護者への相談・対応	4	112
同和教育		同和教育現地研修	1	21
進路指導		いきいきゲーム体験講座，職業ハンドブック OHBY 体験講座	2	39
学校事務		これからの学校事務Ⅰ・Ⅱ	2	70
食育		食育授業講座Ⅰ・Ⅱ，北条南小研究会	3	103
学校保健		AIDS と性感染症，救急法	2	78
文書事務		学校提出文書	1	2
特別支援教育		子ども生き生き支援ツール，WISC-Ⅲ入門・事例検討 発達障害児童生徒への通常学級における支援	4	195
学校経営		情報セキュリティと危機管理，ミドル・リーダーのための ICT 活用 管理職のための ICT 活用、クレーム対応	4	90
図書館教育		学校図書館運営	1	25
教育論文		論文の書き方	1	38
学校園連携		子どもの虐待防止について	1	30
総合	環境教育	環境教育実践プログラム	1	11
	国際理解	小学校英語活動Ⅰ・Ⅱ	2	33
	地域学習	海岸巡検，川での投網体験（雨天のため中止）	1	13
計			75	1765



研修講座スナップショット！



1月14日(水) 発達障害児童生徒の通常学級における支援

柏崎市立教育センター 小林 東

通常学級における発達障害児童生徒への支援について、①特別支援が必要な子どもの背景や特性②これからの学級経営に必要なことの2つについて講話をしていただいた。特に②については、■学級状態のアセスメント■自己の指導型の再チェック■一斉指導と個別指導の統合■(特別支援)校内体制の構築といった4つの視点から、それぞれにおける具体的事例を通しながらわかりやすくお話していただいた。

特別支援学級(学校)担当職員に限らず、通常学級の担任にとっても今後さらに求められる資質であり、日常の実践に役立つ内容であった。



1月28日(水) 学校事務研修Ⅱ

教育総務課 係長 清水 昭彦 様

柏崎市教育委員会教育総務課の清水昭彦係長を講師に招き、柏崎市の財政状況と来年度の予算編成の基本方針について説明をしていただいた。また、それを受けた教育予算編成までの流れについて、事前に出された質問の回答を含め、とても丁寧に解説をしていただいた。市内には、経験年数の少ない事務職員も多くいるが、業務上の疑問点の解消、あるいは今後気を付けなければならない点などについて理解が深まったと考える。

お忙しい中、講座のために多大な準備をいただいた講師先生に感謝申し上げます。



「若手教員自主研修サポート事業」予告

毎年実施してきた「算数・数学研修員実践研究」事業ですが、来年度から教科領域を拡大する方向で計画を進めています。概要についてお知らせいたします。

1 目的

「授業力をつけたい。」「教科の専門性を高めたい。」「学級経営の力をつけたい。」「生徒指導等で悩んでいる。アドバイスがほしい。」等、そんな研修意欲のある若手教職員の皆さんに個別のサポートをし、指導力を伸ばすことを目的とする。

2 対象

教職経験2年～6年の教職員 (募集人数は15名程度)

3 指導主事

指導主事、嘱託指導主事

4 研修の進め方

(1)研修期間は、一年間とする。

(2)研修内容、日時、場所、回数等は、受講者の希望を尊重し、柔軟な研修計画で行う。

(3)講師が学校に出向き、授業や教材研究、学級経営を中心とした実践的な指導をマンツーマンで行う。

詳しい要項や申込み方法については、新年度に入ってから各校に案内が配布される予定です。

問い合わせは、柏崎市立教育センター教育研究班までお願いします。

コンテンツサーバー登録情報

教育センターコンテンツサーバーに「学校教育研究会」のページを追加しました。各研究部のまとめなどの情報を、こちらから提供させていただきます。今年度の情報として、「情報教育研究部 H20 実践記録集」を掲載させていただきました。また、教育情報支援システムトップページの「柏崎オリジナルコンテンツ」欄にリンクを掲載していた「H19『総合』教育研究部 研究・実践集」は、こちらに移動させていただきました。

The screenshot shows the website interface. At the top, there's a blue header with 'contents_server@kec'. Below it, a navigation menu on the left lists various links. A red box with the text 'ここをクリック' (Click here) points to the '学校教育研究会' (School Education Research Association) link. The main content area shows a banner for '活用しよう！コンテンツサーバー' (Let's use the Content Server!) and a photo of a school building. Below the banner, there's a section titled '柏崎市刈羽郡学校教育研究会' (Bari City Karihara District School Education Research Association) with a green header. Underneath, there are three tabs: '新着情報' (New Information), '情報教育研究部H20実践記録集' (Information Education Research Department H20 Practical Record Collection), and '総合教育研究部H19研究・実践集' (General Education Research Department H19 Research and Practical Collection). The '新着情報' tab is selected, showing a list of updates dated 2009/02/25.

新着情報

- 2009/02/25 総合教育研究部 平成19年度の研究・実践集を支援システムから移動しました。
- 2009/02/25 情報教育研究部 平成20年度の実践記録集を登録しました。
- 2009/02/25 学校教育研究会用のページを新規に用意しました。

©2009 柏崎市立教育センター All Rights Reserved.

情報モラル関連情報

2/19 付で回覧にてご案内した情報モラル教育指導用教材「春野家ケータイ物語」が教育センターに届きました。この教材は、独立行政法人メディア教育開発センターがNTTドコモ(以下ドコモ)と共同で、児童生徒に携帯電話との正しいつきあい方を楽しく学ぶための指導用教材を作成し、全国の教育機関などに対して無料で配布しているものです。この教材は、

- ① 映像教材(DVD)
- ② 指導資料(指導展開例や板書計画)
- ③ ワークシート
- ④ 黒板に貼るボードセット

から構成されています。指導資料も充実しており、活用しやすいものですので、まだ申込をされていないようでしたら、ぜひ手に入れて活用してください。

【申込先】
 キッズ・ケータイ・活用プロジェクト WEB サイト
<http://kids-ktai.jp/>

ワークシート
A4 サイズ 8 枚

指導資料
A4 サイズ 60 頁

DVD 1 枚
8 話分 計 79 分

ボードセット
A3 サイズ 32 枚

セキュリティホール情報

マイクロソフトより、3月11日付で3月の定期更新として、Windowsなどの重要な更新が下記のように公開されました。まだUpdateが済んでいないようでしたら、至急Windows Updateなどを実施していただくようお願いいたします。なお、ご利用の環境によっては以下の更新以外にも、別の更新がリストアップされる場合があります。また、一旦更新プログラムが提供された後で再度問題が見つかり、予告なく新たな更新が提供される場合がありますので、「自動更新機能をONにする」、「定期的に更新をチェックする」などして、随時提供される更新が速やかに適用されるようにしてください。

No.	更新の名称	脆弱性等の情報	対象	更新先	深刻度
1	MS09-006 Windowsの重要な更新	Windows カーネルの脆弱性により、リモートでコードが実行される (958690)	Windows 2000, XP, Vista, 2003 Server, 2008 Server		
2	MS09-007 Windowsの重要な更新	SChannel の脆弱性により、なりすましが行われる (960225)	Office Visio 2002, 2003, 2007		
3	MS09-008 Windowsの重要な更新	DNS および WINS サーバーの脆弱性により、なりすましが行われる (962238)	Windows 2000 Server, 2003 Server, 2008 Server		

 は Windows Update または Microsoft Update,  は Office Update から更新を実行します。なお、Office が 2002(XP)以降なら Microsoft Update を利用すると、まとめて実行することができます。
注意 警告 重要 緊急 は右側ほど深刻度が高く、緊急の対応を要します。

USB ワームへの対策を

昨年後半から全国的に猛威をふるっているのが USB メモリなどを媒体として感染を広げるウィルスです（以降、USB ワームと呼びます）。USB ワームが広まる要因は「Autorun.inf」と呼ばれるファイルによる自動実行の仕組みにあります。Windows ではメディアの利便性を高めるため、このファイルを利用してアイコンの変更やソフトウェアの自動起動を実現しており、多くの市販ソフトウェアがこの機能を利用しています（CD-ROM を挿入すると、自動的にソフトウェアのインストールプログラムが動き出すのが代表的な例です）。市内の学校においてもこのような USB ワームが検出されており、小中学校で使用されている USB メモリ等や、教職員の皆さんが個人的に使用している USB メモリ等についても、感染しているものがあることを否定できない状況です。具体的な対策をワンポイントテキストとして支援システム上に掲載しましたので、参考にしながら早急に対応をお願いします。

USB メモリなどを経由して感染するウィルスへの対策

昨年後半から全国的に猛威をふるっているのが USB メモリなどを媒体として感染を広げるウィルスです（以降、USB ワームと呼びます）。
USB ワームの広まる要因は「Autorun.inf」と呼ばれるファイルによる自動実行の仕組みにあります。Windows ではメディアの利便性を高めるため、このファイルを利用してアイコンの変更やソフトウェアの自動起動を実現しており、多くの市販ソフトウェアがこの機能を利用しています（CD-ROM を挿入すると、自動的にソフトウェアのインストールプログラムが動き出すのが代表的な例です）。

1. USB ワームに感染する流れの例

① USB ワームに感染しているパソコンに USB メモリなどを挿入し、USB ワームが自分自身のコピーとその起動を促す「Autorun.inf」ファイルを書き込みます。

② 感染しているパソコンに、①で USB ワームが書き込んだ USB メモリなどを挿入した場合、そのままだと USB ワームは実行されませんが、Windows の自動起動の機能により USB ワームが起動し、知らず知らずのうちに感染します。

③ 感染しているパソコンに USB メモリなどを挿入し、そのままだと USB ワームは実行されませんが、Windows の自動起動の機能により USB ワームが起動し、知らず知らずのうちに感染します。

このように感染の媒介役には USB メモリ、USB ハードディスク、デジタルカメラ、カーナビなど、USB などで接続するタイプでデータの書き込みが可能なものがほとんど含まれます。

2. USB ワームへの対策

USB による「Autorun.inf」の実行（実行）は以下のように行われます。

■ Vista の場合

初期設定では「Autorun.inf」の実行が自動的に禁止されています。USB メモリなどを挿入した場合、直ちに該当プログラムが起動されません。

■ XP/2000 の場合

初期設定では「Autorun.inf」の実行が自動的に禁止されています。USB メモリなどを挿入した場合、直ちに該当プログラムが起動されることがあります。ただし、マイコンピュータを開き、リムーバブルメディアアイコンをダブルクリックして開くと、その時点で該当プログラムが起動されます。

以上の違いを確認した上で、使用している OS ごとに次のような対策を行ってください。

① Step 1: 基本的な対策

最も重要なのは Windows Update などでのセキュリティホールを閉じることと、信頼できるウイルス対策ソフトウェアをインストールし、しっかりとウイルス検出用パッチアップファイルの更新を行うことです。

最近ではこのパッチアップファイルは一日に何度も更新され、新たに発見されるウィルスが検出されるまでに1日かかっています。このパッチアップファイルの検出・更新を自動化して行ってくれるメーカーの製品を使いましょう。製品が検出された場合は自動的にパッチアップが行われますが、その製品でも同じようなウィルスを検出できない場合があります。通常、パッチアップファイルは定期的に自動更新されますが、時々、パッチアップファイルの更新状況を確認してパッチアップする必要がある場合があります。

1. USB メモリなどを経由して感染するウィルスの対策

新年度の準備をお願いします

新学習指導要領への移行に伴い、年間指導計画の準備や新たに購入が必要な教材の確認はお済みでしょうか。4月から新内容を学習することになります。課題選択がなくなったり、学年間の移動があったりしますので、履修漏れのないよう、年間指導計画を作成してください。各教科書会社のHPからも参考ファイルをダウンロードしています。また、理科準備室を再点検し、新内容に使える物品がある場合は、動作確認と安全確認をお願いします。

さらに例年のことになりますが、年度当初の単元に必要なもの、また栽培に関するものなど、忘れずに準備しておいた方が良いでしょう。

例 3年生

- ・ キャベツ苗…モンシロチョウに卵を産ませる
- ・ ヒマワリ、ホウセンカの種
- ・ 棒温度計、虫めがね、遮光ガラス、方位磁針…破損の確認および数の補充

4年生

- ・ ヘチマ、ダイズの種…ヘチマは発芽率が良くない場合があるので、予備を多めに植えておくことも大切です。
- ・ 温度計、百葉箱、(自記記録温度計)…棒温度計は、3、5年生でも使います。割れているものがないか、液が離れているものがないか確認しておきましょう。
※5年生より、「天気による1日の気温の変化」が移行となります。21年度は同様の内容を4、5年生の両学年で行います。

5年生

- ・ インゲン豆、ヘチマの種…インゲン豆はつるなしのものを準備します。
※これまで1学期に学習していた「実や種子のでき方」は来年度から9月単元となります。しかし、苗はこれまで同様1学期から育てておく必要があります。また、夏休み中の管理の方法にも配慮しましょう。
- ・ 温度計、百葉箱、(自記記録温度計)
- ・ メダカ、水草
※メダカは飼育用具が必要です。特に飼育水槽にはメダカを入れる数日前から水を循環させておくようにしましょう。
※21年度から課題選択がなくなり、「卵の中の成長」と「母体内の成長」の両方を扱います。それぞれ資料や教材を確かめておきましょう。
- ・ ヨウ素液…ポビドンヨードを使用したうがい薬を薄めたものでも代用できます。褐色のビンに入れ、冷暗所で保管しておきます。

6年生

- ・ 種イモ…ホームセンター、種苗店で売っているものを使います。
- ・ ロウソク、マッチ、線香
- ・ 燃焼さじ
- ・ 集気瓶(底あり、底なし)
- ・ 石灰水…専用の容器を決めて、作り置きしておくとう便利です。急ぐときは石灰を混ぜた水をコーヒーフィルターでろ過すると良いでしょう。
- ・ 実験用気体ボンベ…酸素、二酸化炭素、窒素×班の数+2~3本
- ・ 気体検知管…酸素、二酸化炭素
- ・ エタノール…葉の色を脱色するときに使います。飲用毒性のあるメタノールは児童には使用させないようにしてください。

理科準備室の整理整頓、よろしくお願いします

実験器具が理科準備室のあちこちに出っぱなしになってはいないでしょうか。水溶液をペットボトルに入れて保管していたりしないでしょうか。

- ・ 薬品については、ペットボトル等への保管は行わず、また試薬瓶は薬品庫へ戻すとともに薬品台帳への記載(使用量と残量)をお願いします。
- ・ 実験器具は次に使うことを考え、きれいに洗浄して、使いやすく整頓しましょう。通常の洗浄では、集気ビンなどに付着した白い汚れや、染色液による汚れはなかなか落ちません。

※集気ビンなどについた石灰水による白い汚れ → 薄い塩酸ですすぎ洗いをするときれいになります。

※染色液の汚れ → エタノールに浸してから水洗いするときれいになります。

等々、理科主任の先生を中心に、作業日を決めて計画的に実施していただけたらと思います。

心の窓 (教育相談班だより)

№ 1 1 5

柏崎市立教育センター 〒945-0833 柏崎市若葉町2番31号 TEL(代表) 23-4591
(Fax) 23-4610

20年度 総括 ～教育相談班～



<20年度 カウンセリングルームにおける相談の傾向と課題>

カウンセリングルーム来室相談は平成21年2月末現在で747件となり、前年同時期の580件を超えました(昨年度比29%増)。内訳(主訴別)で見ると、不登校に関する相談人数が最も多く、次いで、発達障害(通常学級)となっています。不登校に関しては、小学生の不登校相談が昨年度を大幅に上回っているのが気かりな点です(昨年度同時期は18名、今年は29名)。また、震災心のケア関係の相談に関しては、地震後のトラウマに直接関する主訴に対応したものは6人25件と少ないのですが、発達障害の症状・問題行動に関する相談や不登校相談のうち、震災が長期的に影響しているケース(ex.震災後仮設住宅へ転居しているケース、震災後、保護者が精神失調状態になっているケース、保護者が失職などで経済困窮に陥っているケース、等)が幾つか見られます。

面接相談以外にも、ルームではSSTグループを実施し、20年度は5グループ合計31人の小中学生に対してグループ指導を行ってきました。学校からの勧めなどにより参加希望者も多く、候補児として次期以降に待機してもらっている児童生徒が数名いますが、みのり教室の通級を勧めたり、学校でのSST実施を検討してもらうなどして、SST実施の場の広がりも見られ始めています。(文責 小林東)

20年度 カウンセリングルームの相談件数(H21年2月末現在まで)

(1) 年代別面接件数【()内は新規人数】

	幼 児	小学生	中学生	高校生	一般(教員含む)	合 計
面接件数	24 (19)	405 (124)	297 (68)	4 (2)	17 (16)	747 (229)

(2) 内容別面接件数【()内は新規人数】

	就学相談	発達障害 (通常学 級)	発達障害 (特支学 級)	不登校	いじめ	集団不適 応	心身の問 題・不調	情緒・精 神障害	親子関係	その他 (震災ケ ア等)	合計
面接件数	24 (19)	188 (81)	53 (11)	308 (62)	35 (8)	32 (14)	49 (13)	21 (6)	12 (9)	25 (6)	747 (229)



＜ふれあいルームの活動＞

4月に、14人の登録者でふれあいルームがスタートしました。
2月の登録者数は18人です。2月28日（中学3年生通級最終日）
8人の中学3年生が巣立っていきました。（3月6日が卒業式なので、その日は学校から巣立って行って欲しいという願いを込めて
2月で通級を終了し、3月からは学校と連携を密にして卒業式に備えます。）



ふれあいルームでは体験活動を重視しており、「特別な事情が無ければ体験活動に参加しよう」と呼びかけています。人に接することの苦手な子どもたちにとってふれあいルームの指導員以外の人たちと接することは有意義なことであり、体験活動が立ち直りに有効に働きます。国立妙高少年自然の家での宿泊体験では、アドベンチャープログラム、キャンドルサービス、創作活動を体験しました。特にアドベンチャープログラムでは、「相手の気持ちになって考えてやる」「頼るときには全面的に頼っていいんだよ」等を指導されました。また、丸太の上から落ちないようにしながら誕生日順に並ぶ活動を通して「皆の力を一つにするにはどうすればよいか」「自分にして欲しいことは言葉に出して言う」「されて嬉しかったことは人にもしてやる」等、体を通して体験しました。

「ふれあいルームでどんな力をつけたいのか」、「今の自分の力では、どこまでがんばれるのか」、など学校復帰に向け、自分に適した目標を掲げがんばれるふれあいルームにしていきたい。

（文責 矢嶋信昭）

＜学校訪問相談＞

- 学校訪問の相談内容は、特別支援・発達障害に関するもの、学校・学級不適応（不登校を含む）に関するもの、家庭環境に関するものが多くあがりました。教員自身の相談も若干ありました。相談内容によって、カウンセリングルーム、ふれあいルーム、家庭訪問相談員につなげたり、元気館など外部機関につなげたりして望ましい対応ができたと思います。しかし、学校側の意向が、該当児童生徒や家族の理解が得られず、遅々として進まないケースもあり課題として残りました。
- 問題行動や気になる児童生徒（場合によっては保護者）への対応は、早期対応とそのための校内支援体制の構築が重要であることから、学校訪問を通じてお願いしてきました。各学校の課題解決の意識が高まり、望ましい支援体制ができるようになってきました。これに応えるために来年度も、今年度効果が上がった同道訪問の充実や教育相談班一体となった対応をなお一層進めていく必要があります。
- 今後の課題として、一つ目は、年々めまぐるしく変化する社会や家庭環境にいかに対応していくかです。家庭の教育力低下、家庭環境の劣化、発達障害に関する相談の増加、幼保・小・中・高の連携の必要性など教育相談班だけでは対応できないケースの増加が予想されます。元気館だけでなく、子ども課、就学指導委員会、学校・地域のサポートチーム・センター、児童相談所、医療機関などとの連携をいかに効果的、能率的に進めていくかです。

二つ目は、各学校の支援体制の充実・改善がなお一層求められていることです。重要なことは、校務多忙と限られた職員数でどのように進めるかの創意工夫です。それに対して、教育相談班として学校教育課の指導を受けたり、より良い提案をしたりして行政と一体となり、各学校をどのように支援していくかです。

（文責 滝澤富士男）



＜家庭訪問相談を通して＞

今年度は4名の中学生を対象に家庭訪問相談を行ってきました。1度も顔を合わせることができなかったケースもありましたが、ふれあいルームに足を運ぶことができたようになったケースもありました。

家庭訪問相談ケースの子ども達に共通していたのは、「人とのかかわりが苦手」なために孤立してしまい、そのために「自分の気持ちを整理することが難しい」ということでした。自分のことをうまく伝えることができず、「わかってもらえない」という気持ちを強く抱き、対人関係につまずき感をもっています。中には「どうせうまくいかないから」と、人と関係を持つことを拒絶し「人嫌い」になる子どももいます。人はなかなか物事がうまくいかないときに、人と話をしたりかかわることで、自分の状態を把握したり、気持ちを整理できたりするものです。しかし、「人嫌い」な子ども達は孤立してしまうために、複雑な気持ちをうまく整理できず「自分でもよくわからない」状態になったり、(発達障害の特性などもあるものの)「自分流」の解釈に偏りがちになるため否定的な考えに凝り固まってしまうりして、なかなか前に進めません。同年代とかかわれないこともさることながら、周りの大人も、よくわからないので子どものことを誤解してしまっていたり、「登校させよう」という「欲」が出てしまったり、子どもの方も「登校させようとしているな」などという先入観をもって大人と接するため、なかなかうまくかかわれないことが多いように思います。

しかし、「人嫌い」になりながらも、どの子どもにも言えることは、心のどこかでは「自分を理解してくれる」「一緒に楽しんでもくれる」「安心してかかわれる」人とのかかわりを求めているということでした。引きこもりがちな不登校の子どもにとって、一緒に遊んでもくれるし、「無欲」で話を聴いてくれて自分をわかってくれて、気持ちを代弁してくれて、たまに背中を押してくれる「あんちゃん」的役割を果たす大人の存在の必要性を感じています。

(文責 長谷川 大)



＜教育電話相談＞

教育センターでは、中学生までの児童生徒とその家族を対象に、いじめの問題やその他の教育面・生活面の悩みについて、専用電話による匿名での相談に応じています。

今年度の利用件数は、昨年度より減少したものの、18件(2月末現在)の相談がありました。相談利用者は、中学生の保護者が最も多く、ついで、一般の方、小学生の保護者、高校生の保護者となっております。中学生本人からの相談もあり、早期の登校改善につながった経過もあります。主な相談内容は、登校渋りや発達相談、お子さんの気になる行動についてなどでした。いずれも、早い段階で相談をいただいたことにより、家庭内での適切な対応や学校への相談、また専門機関への相談につながるなど状況の改善が見られています。

教育電話相談では、相談を下された方の思いや迷いを大事に受け止めながら、お子さんにとってどうなることが安定することなのか、そのためにどんなことができるか、と一緒に考え取り組んでいます。その他、相談内容によっては、より適切な専門機関の紹介や利用できる制度の紹介もいたしております。

問題の対応には、早い段階での取り組みが、状況の改善に効果があります。困ったとき、迷ったとき、ぜひ、匿名で相談できる教育電話相談をご利用ください。

(文責 本間良子)



平成21年4月より 視聴覚ライブラリーは図書館(ソフィアセンター)へ移転します



これまで多くのご利用をいただきありがとうございました。
4月13日(月)より図書館で貸出し業務を開始します。

移転するにあたり、新年度より担当も代わります。3年間お世話になりました。

視聴覚ライブラリー 担当 赤澤

移転後、貸し出しは次のようになります

図書館で貸し出し

教材

ビデオテープ
DVD
16ミリフィルム

視聴覚機器

プロジェクタ・スクリーン
16ミリ映写機・ビデオデッキ
DVDデッキ・CD/MDデッキ
デジタルビデオカメラ ほか

予約 TEL 22-2928
(図書館代表電話)

教育センターで貸し出し

学校・社会教育団体

ともに貸し出し可↓

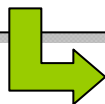
大判インクジェットプリンタ
マックスアート(拡大印刷)

学校のみ貸し出し可↓

デジタルカメラ(23台)
マルチプロジェクションカメラ

職業ハンドブック(OHBY)

予約 TEL 23-4591
(教育センター代表電話)



図書館での窓口は2階・メディアホール、開館時間・休館日は図書館と同じです。

注!・移転後、ライブラリーの利用を希望する団体は、新たに貸し出し団体登録が必要になります。

(団体登録の詳細については図書館へお問い合わせください。)

- ・4月より教育センターでは、マックスアートとデジカメ(23台)以外の機器の貸し出しを行いません。センターを会場に研修や会議を行う場合はご注意ください。

図書館での貸し出し・予約受付は **4月13日(月)から受け付けを開始** します。
また移転準備のため、**3月20日(金)から4月12日(日)まで ライブラリー業務を停止** します。ご不便をおかけしますが、ご協力お願いいたします。

移転についてご不明の点はライブラリーまでお問い合わせください。

今年度もたくさんのご利用ありがとうございました

今年度 2 月末までの利用状況です。

項目	利用数	前年度 年間利用数
16 ミリフィルムの貸し出し	147 本	131 本
ビデオテープ・DVD の貸し出し	366 本	369 本
視聴覚機器の貸し出し	771 台	706 台
機器操作講習会	74 人	62 人
子ども会などでの映写会	20 人	100 人

3 月の利用を含めると昨年度とほぼ同様、もしくは上回のご利用をいただきました。

貸し出しベスト4

		管理番号	タイトル	メディア	回数
学校教育	1	V15-078	明日元気になあれー元気配達人・松村智弘一	VHS	7
	2	V15-070	渋染一揆 ー明日に架ける虹ー		6
	3	V15-030	にんげんの詩		5
	3	V15-098	部落の歴史（中世～江戸時代）		5
	4	V06-006	炎の証言 ～戦争と子どもたち～		4
	4	V08-005	工業地域といろいろな工業		4
	4	V15-031	きずな ～にんげんの詩 Part2～		4
	4	V09-111	小学生のための性教育シリーズⅡ		4

		管理番号	タイトル	メディア	回数
社会教育	1	V09-139	自転車安全大作戦～歌おう！ぼくらの交通安全～	VHS	11
	2	040-170	じごくのそうべえ	VHS/F	10
	3	V09-130	ちびまるこちゃんのこんな乗り方危ないよ	VHS	8
	4	040-031	おばけ長屋	VHS	5
	4	040-148	ドナルドダックとゆかいなペンギン	16F	5
	4	040-172	ともだちや	16F	5

新入学・入園の春 交通安全に気をつけましょう 交通安全教育オススメ教材

※ライブラリー休館中の春休みの利用については、電話にてお問い合わせください。



管理番号	タイトル	分	管理番号	タイトル	分
V09-099	ニャンダーかめんの交通安全	13	V09-127	ボンカンマンの自転車免許教室	18
V09-075	忍たま乱太郎の子通安全	15	V09-130	ちびまるこ こんな乗り方危ないよ	13
V09-106	忍たま乱太郎の自転車安全教室	16	V09-134	オズの魔法使いの交通安全の旅	12
V09-108	ハム太郎のとっとこ大切！交通ルール	14	V09-139	自転車安全大作戦	23
V09-109	おじゃる丸の交通安全	15	V09-115	ズッコケ三人組自転車安全教室	28
V09-118	しましまとらのしまじろうの交通安全	15	D09-001	クーニャンの交通安全 正しい自転車の乗り方	15



～ありがとうございました～

柏崎刈羽視聴覚ライブラリー協議会時代から発行してきましたこのライブラリー通信『プラ NET』も移転に伴い今号が最終号となります。今後も新しいライブラリーをぜひご利用くださいますようお願い致します。移転については「広報かしわざき 3/20 号」もあわせてご覧ください。

育成センター通信	0815	柏崎市青少年育成センター 〒945-0833 柏崎市若葉町2番31号 TEL0257-20-7601 FAX0257-23-4610 ikusei@city.kashiwazaki.niigata.jp
----------	------	--

4 月 の 予 定

日	曜	こ と が ら	日	曜	こ と が ら
9	木	高校下校育成開始（～24日まで）			
20	月	夜間育成（9・10班）			
27	月	昼間育成（1・2・3班）			

市教育委員会から表彰される！

～劇団「育成座」の日頃の活動が認められる～

去る2月13日（金）に柏崎市教育委員会から長年にわたって青少年健全育成を呼び掛けている劇団『育成座』の取組が高く評価されて表彰されました。

当日は、田中康夫座長が出席し、高杉教育委員長から表彰状が授与されました。表彰式の中で田中座長さんは、「先輩の方々による長い間の取組が認められて、とても光栄なことです。育成座とは、何をしているのか知っている人は少ないと思います。劇団『育成座』は、寸劇を通して青少年の健全育成を呼び掛ける組織です。要請があれば、市内のどこにでも出掛けていく出前劇団です。目立たない取組ですが、少しでも青少年の健全育成に役立ちたいと思います。これを機会に座員一同、精一杯がんばりたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。」と、受賞者の代表としてお礼の言葉を述べました。

育成座は、昨年11月下旬に文部科学大臣表彰に続き、二重の喜びとなりました。さらに市民の期待に応えるように一層の精進をしていくよう決意を新たにしています。



教育委員会表彰式の風景



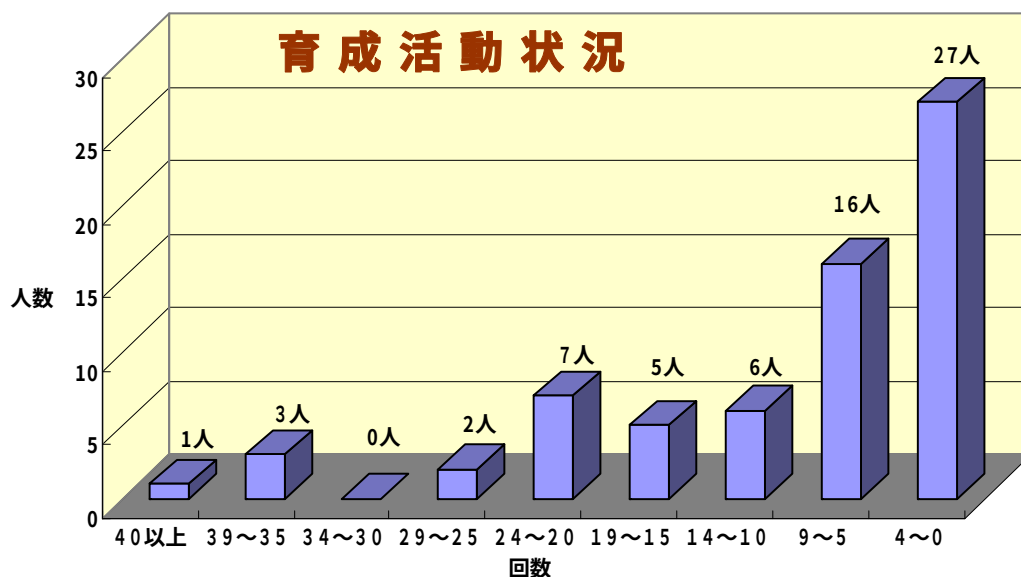
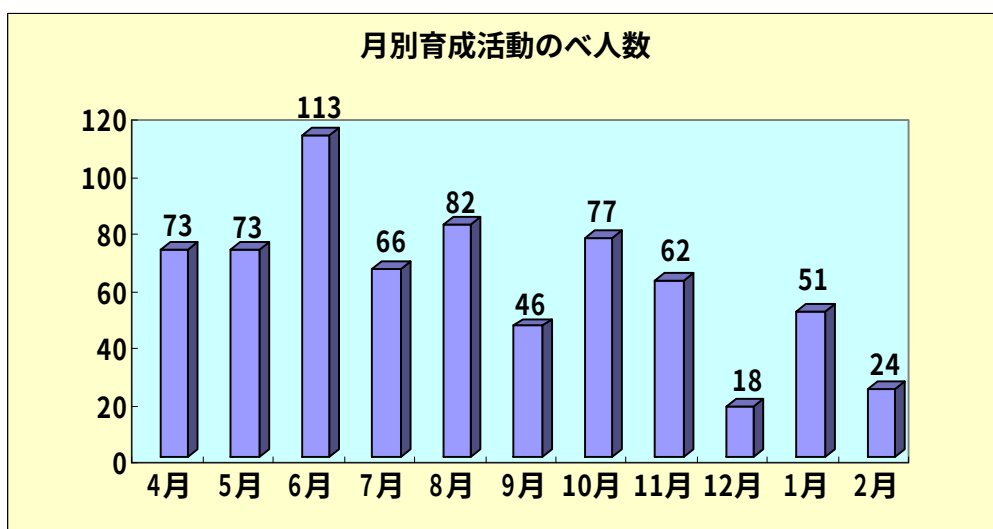
熱心な育成活動のあしあと

平成20年4月から平成21年2月まで

平成20年度もあとわずかとなりました。この1年間の育成委員の活動ぶりを振り返ってみると、下図のようになりました。1年間を通して多数の育成委員の皆さんが取り組んでいただいた足跡です。のべ685人（1か月平均62人）の育成委員の皆さんが青少年の健全育成活動に汗を流していただきました。

年間10回以上の育成活動参加を呼び掛けてきたところ、24人（全体の35%）の育成委員の皆さんが目標達成することができました。育成委員の中では、1人で40回以上参加していただいた方もいました。1年間、いろいろとご苦労いただきましたこと、心より御礼申し上げます。

このように育成委員の熱心な活動により、柏崎市内における青少年の健全育成を図ってきました。来年度も今年度以上に育成活動を盛り上げていきたいと思ひます。



時速 6 km を楽しむ

青少年育成センター
嘱託 阿部 博

囲碁に将棋、スキーにスケート、ギターにマンドリン。そして俳句に短歌。あちこち手を出す、すぐに投げ出す。熱しやすく冷めやすい。これが小生の性格だ。しかし、小生にしては、珍しく長続きしていることが一つだけある。それは、ウォーキングだ。なんと10年も続いている。自分自身でも信じられない。

◆10年前の人間ドックで惨憺たる結果を突きつけられる。いわゆる、「メタボ」解消を厳命される。水泳・ジョギング・エアロビクス・ウォーキングなどの有酸素運動を提案されるが、どれも気の進まない運動ばかりだ。渋々、楽そうなウォーキングに手をつける。寒いから暑いから、時には仕事があるからと自分で勝手な言い訳をつくる。重い腰をあげて町内をぶらつく。1～2 km、30～40分かけてゆっくり歩く。・・・1か月くらいすると、距離を伸ばしたくなる。自然に歩く速さが上がる。歩き始めてから15～20分くらいすると、背中にじんわり汗がにじむ。歩き終わると爽快感と充実感が生まれる。・・・半年くらいすると歩く距離がさらに伸びる。歩く速さも上がる。おもしろさが増す。雨でも雪でも歩く。のめり込む。・・・1年くらいすると、自分に合った歩く速さが見つかる。時速6 kmだ。日常の歩きに比べてかなり速い。いわゆる、速歩だ。これを小生は、ウォーキングと称している。

◆今では、元日から大晦日まで、土・日曜日それに祝日と寸暇を惜しんで楽しんでいる。1回のウォーキングは、約6 kmを1時間で、体調の良い時には、8～10 kmと距離を伸ばす。範囲は、自宅から近隣町内を定番としているが、時には車で出掛けて出発点を変えて歩くこともある。当初は「メタボ」解消という重い義務感を背負っていたが、今では生活の一部となって、何の義務感もなく歩きたいから歩いている。ウォーキングのあとは、ウーロン茶で喉を潤しながら爽快感と充実感に浸っている。・・・昨年は614 km、10年間で5401 km歩いた。

◆京大名誉教授の大島清氏の著書「歩くとなぜいいか？」(PHP文庫)によると、「歩くことは本能に根ざした快感で、快感に包まれるとき、脳は活発に動く」と述べている。ウォーキング中の小一時間、様々なことが頭に浮かぶ。現職の時には、勤務校のことが主なテーマだ。退職した今では、学校に関することはない代わりに趣味などが主なテーマとなっている。時には、依頼された原稿の想を練ることもある。現にこの拙稿もここで練ったものだ。また、大島氏は「歩くことは趣味の王様」とも述べている。ウォーキングは、いつでも、どこでも、誰にでもできる。その上、予約もいらなし、入場料や使用料などの費用もかからない。年金生活に入った小生には、うってつけの趣味だ。

◆機会があれば、信州・安曇野、北海道・富良野そして沖縄・久米島に出掛けて大自然の下でいい汗をかくのが夢だ。このことを夢見つつ体力と気力の許す限り「時速6 km」をいつまでも楽しんで、充実した「人生の午後」を過ごしたい。

回 覧



- ほかの教科書の単元展開はどうなってる？
- 小・中・高校の指導内容のつながりは？
- 小・中・高校ではどんな教科書を使って

こんなときは



教科書 センターへ！

教科書の閲覧と貸出しは常時可能

(開館時間 午前9時～午後5時)

問い合わせ
場 所

Tel 23-4591
柏崎市若葉町2-31
柏崎教科書センター
(教育センター 2F)

日	曜	研修・行事・会議	内部事務・日程等	出張・関係事業等
1	水		辞令交付式準備運営（矢沢）	教員辞令交付式 11:00～ センター辞令交付式・所内会議 15:00～
2	木			
3	金		招集校長会資料提出期限	
4	土			
5	日			
6	月		わかば会歓迎会	出・県地区セン幹事会（長岡：植木）
7	火	ふ・通級開始・再通級面談		
8	水			
9	木		保存文書廃棄	
10	金			
11	土	科・春の植物観察会（夢の森公園）		
12	日			
13	月		ライブラリー業務再開（図書館）	県地区セン代表者会（長岡：所長・植木）
14	火		広報5月20日号原稿×切	
15	水			市教委招集校長会 10:00～
16	木			学校研総会 14:00～
17	金		【GALILEI原稿×切】	出・県地区セン研修総会（新潟：植木）
18	土			
19	日			
20	月			
21	火	科・理科主任会		
22	水			出・全県指導主事会議（県セン：矢沢）
23	木			
24	金			
25	土			
26	日			
27	月		【GALILEI発行】	
28	火			【教育委員会】
29	水	昭和の日		
30	木			
			研・教育研究 科・科学技術教育 相・教育相談 ふ・ふれあい ルーム 情・情報教育研修 育・育成センター 出・出張 ＊施設貸出 【 】は未確定の行事・時間	

教育センター事業の参加・利用状況 (先月末)

	研 修 講 座 ・ 事 業 名		2月の 利用数	先月までの 利用合計数	19年度の 利用合計数		
教育 研究 班	専門研修講座　＊		0回	47回	40回		
			0人	1,328人	1,365人		
	共催研修、研修講座		1回	9回			
			58人	561人			
	学校の要請研修会		0回	0回	1回		
			0人	0人	1人		
	調査研究員会,教科研修員会		1回	10回	11回		
			12人	64人	46人		
	教育情報化研修講座　＊		3回	42回	41回		
			17人	411人	277人		
	情報教育主事の要請支援等		13回	176回	109回		
			55人	1,345人	1,017人		
科学 技術 教育 班	理科研修講座　＊		1回	28回	16回		
			3人	344人	133人		
	学校等の要請研修		0回	17回	21回		
			0人	494人	791人		
	地域の自然研修・観察会		0回	11回	8回		
			0人	454人	367人		
	科学教育振興事業(科学の祭典・科学教室等)		0人	7,411人	4,600人		
	理科教育の相談・支援		28件	493件	263件		
	理科教材・物品の貸出		16件	285件	115件		
	(教職員研修の合計)		3人	887人	462人		
	教育 相談 班	カウンセリングルーム来室相談		新規相談件数	6件	229件	227件
				のべ相談件数	64件	747件	649件
学校訪問相談		0回	90回	138回			
家庭訪問相談		訪問対象者数	2回	37回	49回		
		訪問のべ人数	10人	133人	17人		
電話相談		0件	18件	32件			
ソーシャルスキルトレーニング		5回	45回	42回			
		19人	233人	218人			
ふれあいルーム在籍人数		小学生	3人	19人	15人		
		中学生	15人	149人	177人		
ふれあいルーム通級日数		19日	179日	192日			
ふれあいルーム通級のべ人数		小学生	5人	82人			
		中学生	90人	1,205人			
ふれあいルーム学校復帰人数(部分復帰を含む)		0人	13人	16人			
視 聴 覚 ラ イ ブ ラ リ ー	16ミリフィルムの貸し出し		21本	147本	131本		
	ビデオテープ・DVDの貸し出し		18本	366本	369本		
	視聴覚機材の貸し出し		48台	771台	706台		
	編集,借用,相談等の来室者		69人	962人	929人		
	機器操作研修会		2人	74人	62人		
	親子映写会・児童クラブ映写会		0人	20人	100人		
教育団体，P T A，市民等の利用			187人	2,161人	3,842人		
教育センター事業の参加・利用総数			728	20,841	16,896		

ガリレオ・ガリレイはイタリアの天文学者で近代科学の父と言われ、経験的・実証的方法を用いる近代科学の端緒を開いた人です。

新しい教育の創造を志向する私たちにもガリレオ・ガリレイのごときたゆまざる創造と検証の精神が必要であるという趣旨から情報紙の名称を「GALILEI」としています。

教育センターと青少年育成センターの情報とともに、柏崎の教育を広く発信していきます。

所報「GALILEI」 平成 21 年 3 月 19 日発行



945-0833 新潟県柏崎市若葉町 2—31

柏崎市立教育センター

TEL 0257-23-4591
FAX 0257-23-4610

柏崎市青少年育成センター

TEL 0257-20-7601
FAX 0257-23-4610